企画提案（事業計画書）等について

【浪速区】（受託者：株式会社　地域環境計画研究所　）

１　地域活動協議会の現在の状況についての分析

項目		地域活動協議会の状況についての分析
「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」	(1)「Ⅰ　地域課題への取組」についての分析	地活協設立を性急かつ事務的に進めたため、地活協の意義や地域の課題共有を充分にできないまま設立してしまった地域がある。その弊害として、地活協設立を単なる会計事務の負担増加としてしか捉えられない地域もあり、地活協のメリットを享受できている地域との取り組み意欲の差が顕著である。しかし「なにわ区ラボ」で他の地域との情報交換する機会が増えたことで、意識に変化が生まれている。
	(2)「Ⅱ　つながりの拡充」についての分析	浪速区は5年間で3分の2の人口が入れ替わるといわれており、多くを占めるのは20～40歳代の子育て世代である。登下校の見守りや地域の小学校の校庭でおこなわれる各種行事が、すべて地域活動の一環であることを受益者である子育て世代に周知し、地域住民が運営していることを認識してもらう必要がある。
	(3)「Ⅲ　組織運営」についての分析	・今年が役員改選年度であったことから、新任の役員および運営委員が加わった地活協では、事務の引継ぎが円滑に行なわれていなかったり、地活協の全体像を把握できないために会議が輻輳するなどした。 ・広報活動が滞っていたり、広報担当者が不在で担当者探しに難航している地域など、ひきつづき支援を必要とする地域がある。 ・地活協役員の交代をきっかけに、一部の地活協では、子ども部会や広報チームの立ち上げ、構成団体の拡充の検討が始まり、限られたマンパワーながら活動の質を高めようとする動きが見られる。
	(4)「Ⅳ　区独自取組」についての分析（区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」において設定したもの）	・マンション管理会社や宅建協会関係者に浪速区が独自に作成した防災支援メニューを提案し、地域活動の最初の一歩づくりに取り組んでいる。 ・昨年度に制作した地活協パンフレット「知ってます？ご近所のチカラ」と、一般住民向けにアレンジした防災支援メニューの紹介チラシを乳幼児健診で配布するルートが確立できた。

２　事業の実施内容（支援策（取組）の内容）

項目		事業者選定時等における企画提案（事業計画書）の概要
「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」	(1)「Ⅰ　地域課題への取組」にかかる支援の提案内容	・地活協の成熟度に応じた自律支援と、マンション住民や転入世帯を対象に地活協の裾野を広げるための支援を両輪として展開する。 ・自立支援としては、全地活協が参加し、情報や能力を共有できる場として、「なにわ区ラボ」を開催し、地活協のマネジメント力向上を支援する。裾野を広げるための支援として、地域活動もしくは「地活協」の名称や活動の意義を伝えることに注力することとし、「広報なにわ」の紙面で地活協の目的や意義を伝える。
	(2)「Ⅱ　つながりの拡充」にかかる支援の提案内容	地域活動に対して、「①地域のリーダー」「②行事・イベントには参加する」「③地域活動に無関心」という3つの階層を念頭に置いて、地域コミュニティ支援に取り組んでいく。 ■各階層への支援 ①地域のリーダー：地活協の会長を対象とした連絡会議を開催し情報共有を図る。 ②行事・イベントに参加：紙媒体やWEBでの発信を効果的におこない、情報にアクセスしやすい流れをつくる ③無関心：浪速区広報紙での連載記事を通して地域活動への共感・関心を促す。
	(3)「Ⅲ　組織運営」にかかる支援の提案内容	・成熟度に応じた自律支援 浪速区の地活協の成熟度は、大阪市市民局資料における「ステージ2」が10地域、平成27年2月に設立された1地活協が「ステージ1」で進行中である。同じステージ2の中でもレベルにばらつきがあり、運営の成熟度と取り組み意欲で評価すると3つのグループに大別することができる。それぞれのグループごとに方針を定めて支援をおこなう。 ■3つのグループの支援方針 【グループ1】参画促進支援（合議的な運営＋新たな担い手の獲得に意欲的） 【グループ2】運営体制支援（現状に満足、改善余地が少ない） 【グループ3】初歩的支援（運営面の充実に向けた支援）
	(4)「Ⅳ　区独自取組」にかかる支援の提案内容（区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」において設定したもの）	・地活協パンフレットの活用 人口が流動的な浪速区であるが、短い在住期間であっても、地域活動への関心を持ってもらい、参加を促すため、平成27年度に制作した地活協のパンフレットを、浪速区役所との連携のもとで全転入者に配布することを提案する。

３ 事業の実施体制等

項目	事業者選定時における企画提案（事業計画書）の概要
(1)自由提案による地域支援の提案内容 （企画提案書（事業計画書）等で受託者が提案したもの）	浪速区内の11地域への支援にあたり、地域まちづくりに関する業務経験が豊富な「アドバイザー（コンサルタント）」と、これまでの支援活動を通して地域と人間関係のできている「地域まちづくり支援員」がペアで地域に入っていく体制を基本とする。また、浪速区民に地域活動協議会およびまちづくりセンターの周知をはかるため、多様な機関・団体と連携して業務を進める。
(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる提案内容	・アドバイザーは2名体制、地域まちづくり支援員は3名体制で担当地域を決めて支援をおこなう。 ・属人的に陥りがちな支援活動からの脱却と、地活協の実質的な自律を目指して、平成28年度からは支援員全員の担当地域が入れ替わるように配置転換をおこなった。なお、各地域の前任者を副担当者とし、支援業務が滞りなくおこなえる体制をとっている。
(2-2)フォロー(バックアップ)体制等にかかる提案内容	・おおよそ3～4か月に1度、区役所担当者、アドバイザー、支援員での支援会議を開催し、各地活協の現況確認と今後の支援方針について意見交換をおこなう。 ・区役所担当者、アドバイザー、地域まちづくり支援員、社会福祉協議会と月１回の全体定例会を開くとともに、担当者レベル（区役所担当者、アドバイザー、支援員）で毎週火曜に定例会を開き、地域への支援状況の共有や、支援方針について打合せをおこなう。
(3)区のマネジメントに対応した取組にかかる提案内容	・マンション管理会社と地活協との関係づくりに取り組む。具体的には、区内の物件を扱うマンション管理会社に対して、各地活協が開く防災訓練への参加や浪速区役所による防災勉強会などの開催を促す。管理会社のネットワークで、他のマンションへの波及効果も狙っていく。 ・「区民まつり」など多くの区民が参加する地域行事に出展し、防災を切り口に地活協PR活動をおこなう。

４ 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）（5つ以内）

支援策（取組）名称	支援策（取組）の内容	重点的に取り組む理由
井戸端会議の試行	会場全体にマイクを回すことで参加者全員が発言する開かれた会議により、フラットな意見交換と地域課題の掘り起こしをめざす。 ●H28浪速区政方針4-1-2【市民活動団体の活動の活性化】	昨年度、鶴見区榎本地活協での井戸端会議を見学した大国地活協で試行している。7月に実施したところ、参加者にも好評であったため、継続して実施することになっている。
なにわ区ラボの開催	地活協のマネジメント力向上に資する支援として、「会計」「情報発信」「防災」「若手」をテーマに全4回の研究会を実施する。 ●H28浪速区政方針4-1-2【市民活動団体の活動の活性化】	役員改選期にあたることから、新任事業担当者に向けた会計説明会を昼夜2回開催。情報発信の研究会においては、各地域の担当者がレクチャーをおこなうことで、地域間で情報交換ができる下地とした。
中間報告会の充実	中間報告会は、前期事業の課題抽出や後期事業への補助金の再配分など、もっとも自由闊達な意見交換ができる場である。この会議をクリエイティブな雰囲気で運営することで、PDCAに則った会議としていく。 ●H28浪速区政方針4-1-2【市民活動団体の活動の活性化】	実施責任者による報告を原則に、写真やアンケートなど、具体的な実施状況のわかる資料を用意し意見交換をおこなう。まちづくりセンターも運営に積極的に関わり、意見抽出の役割を担う。
分譲マンション居住者へのアプローチ	分譲マンション居住者に対して、防災の情報を届けることで地域活動への入り口としていく。そこでマンション管理会社や管理組合に対して、浪速区役所と連携しながら支援メニューの提案をおこなう。 ●H28浪速区政方針1-3-1【区の防災計画・防災マップの周知、防災意識向上のための啓発活動】	浪速区役所の防災担当者と協議のうえ出張防災講座や防災マップ配布などの支援策をメニュー化し、マンション管理組合や管理会社へ提案する。（すでに1社を訪問済み）
広報なにわ「教えて！地活協！」の連載	H28年度より増ページとなった「広報なにわ」において、地域活動の入り口となるマンガと解説記事を連載する。2万3千部という発行部数を活かし、地域活動の基礎知識を区民に届けることをめざす（従来独自発行していたニュースレターは各号5千部発行）	地活協が取り組む4分野の事業の中から、各回1つを取り上げて掲載。活動の導入部分となるマンガパートと、その解説となる記事を掲載する。ラインナップや内容については区役所と協議し決定している。

５ 現時点での支援の実施状況に対する自己評価

(1)現時点での支援の実施状況に対する自己評価	2「事業の実施内容」の中で分類した3つの階層に対しての支援の評価 ①地域のリーダー層に対して ・会計と情報発信をテーマとする「なにわ区ラボ」は、改めて各地域の取り組み内容を共有する機会として有益であったと考える。 ・浪速区内でも影響力の大きな地活協が井戸端会議に取り組むことで、新しい会議スタイルを試すことのできる素地ができたと考える。 ②イベント等には参加する層に対して ・各地活協のブログ記事作成のレクチャーや情報紙発行の支援をおこなうことで、いつ、どこで、何がおこなわれているか一定の情報が得られる体制が整いつつある。 ③地域活動に無関心な層に対して ・「広報なにわ」の連載「おしえて！地活協！」を通して、日頃地域で行われている取り組みへの認識や、実施している人たちに対して共感を持ってもらう下地は作れたと考える。
(2)上記を受けた、年度後半の支援についての考え	①中間報告会を契機とした、自由な意見交換の場づくり ・前期事業を楽しく振り返る雰囲気をつくると同時に、抽出した課題を次年度の計画へと反映させる会議運営を支援する。また、補助金の再配分をきっかけに、新事業についても積極的にアドバイスをおこなう。 ②多くの意見が反映された事業計画づくり ・次年度の事業計画作成にあたっては、①の記録を土台に必要事項を付加していく。 ・前例踏襲で思考停止することなく、いまの課題に根ざした活動を計画に反映させるよう会議運営を支援する。 ③事務の負担を分散した報告書づくり ・事業の中身を知る個々の担当者が一定の作業をできる体制を整え、会計役員がその内容を確認するという状態をめざして会計支援に取り組む。できない場合は必要書類を過不足なくそろえることを徹底する。